

## 53 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力 (24) —騎兵旅団の街 船橋(2)—

29期 仲田 元昭

前回に引き続き、日本陸軍の華と言われた快速兵団・騎兵旅団の街として、明治、大正昭和と活躍してきた船橋の歴史を振り返る街歩きのご案内です。

### 1、日露戦争と「秋山好古」騎兵第1旅団長の活躍

秋山好古は、明治36年(1903)に騎兵第1旅団長に赴任し、翌37年(1904)日露戦争が始まると両旅団長として中国にわたり戦地、沙河、黒溝台、奉天等の激戦地を駆け巡り、当時世界最強と言われたロシア コザック騎兵と互角に渡り合い、あるいは凌ぎ日本軍の危機を幾度も救う活躍みせました。司令官でありながら最前線で指揮をとり、退兵時には自らしんがりを務めました。

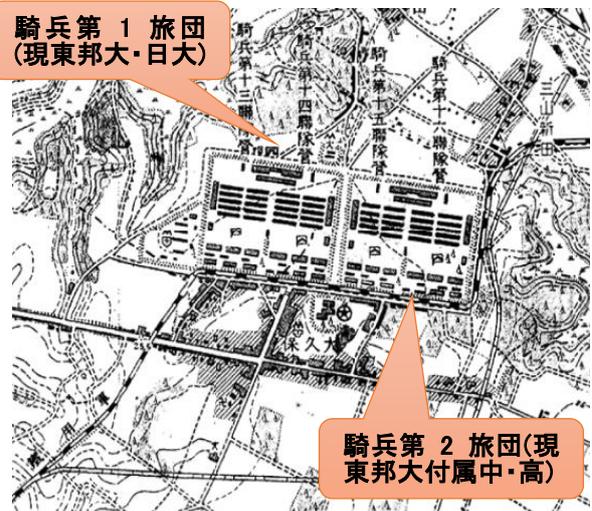
この戦功により後に「日本騎兵の父」と呼ばれた秋山好古、そして日本海戦で赫々たる成果を遂げた連合艦隊の首席参謀実弟秋山真之の活躍は世界から驚きをもって後に小説「坂の上の雲」(司馬遼太郎著)の主人公としてあがかれ、現在も多くの人にその名を知られています。

### 2、満州事変と騎兵旅団

満州事変が勃発するや、昭和7年(1932)第1旅団はこれに出動して各地に転戦し、引続きそのまま満州ハイラルに駐屯、さらに支那事変に活躍して偉功を樹てました。

この間、第2旅団は終始この地に衛戍<sup>えいじゆ</sup>して訓練を続け、また各種部隊の編成補充に任じました。時代の変遷に伴い騎兵部隊は逐次機械化の途を辿るに至り、第2旅団は昭和16年(1941)第1旅団は同17年(1942)それぞれ戦車部隊に改編され、ここに騎兵旅団の歴史は終りを告げました。

旅団創設以来この地、船橋で訓練された壮丁は、関東全域及び山梨長野両県下から選抜せられ、その数延数万人に及び、軍馬は、地元船橋(数百頭、内塚田村48頭)からも含め、北海道及び東北地方から補充せられ延1万余頭に達し、騎兵旅団としての華々しい活躍をしてきた街です。



「大正14年騎兵旅団付近マップ  
(国土地理院マップに加筆)」



「京成大久保駅近く 第1騎兵旅団長 秋山好古大将記念碑」

(参考資料：船橋のあゆみ、騎兵旅団発祥の地石碑碑誌他)  
「54 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力 25 に続く」「2025-4-1 寄稿」